

● 国際交流の集い「スペイン語圏に暮らして」

この国際交流部会の活動は、新型コロナウイルスのパンデミックのため、昨年度末から活動中止を余儀なくされてきましたが、今回、感染防止対策をとる条件付きでの活動が可能になり、7か月ぶりに「第151回 国際交流の集い」として、今回の開催に漕ぎつけました。

私達の国際交流の活動は、参加者は公募に近い形をとっているため、人気の講演では、参加者が多くなり、これが感染防止に反するため、活動が成り立たなくなります。

そのため、「ウイズ・コロナ」の期間は、私達の望むところではないが、参加募集人数を制限することを決め、これを実施しました。市の指導する感染防止対策を遵守し、少人数で下記の活動を実施した。(参加者 14名)

プレゼンテーション

タイトル: 「スペイン語圏に暮らして」

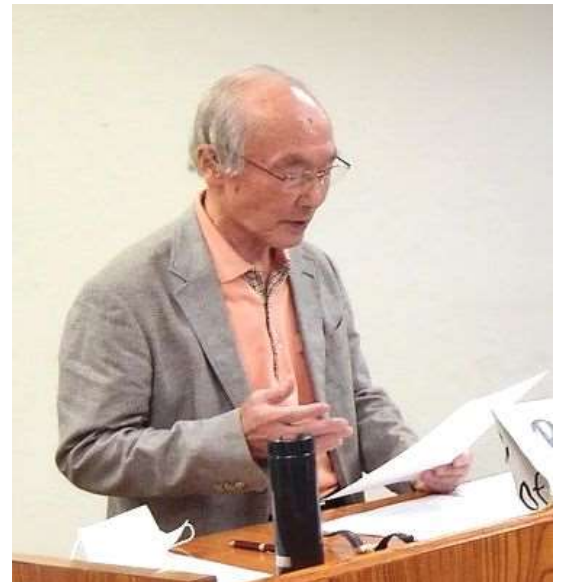
“Living in Spanish World”

プレゼンター: 清水 武 さん

Mr. Takeshi SHIMIZU



▲コロナ禍で、ソーシャルディスタンスを保ちながらの集い



▲プレゼンター 清水 武さん

お仕事上、多くの国での生活経験があり、定年退職された後も、ボランティア活動で海外からの人々と接しておられる本人が、比較文化の形をとって、多くのエピソードを話された。その多くは、何でも予定通り進まず、日本人はイライラする話だが、振り返って見ると、どちらが人間らしく生きているかを考えさせられると言う。

特に印象深かったことは、頬のキスとハグである。家に友達を呼んでパーティしたときなど、「頬のキスとハグがないと心から喜ばれていない感がある」らしいことである。

これはまた、一方的にやったらだめで、アウンの一致が必要だと言う。清水さんは、皆に理解してもらうことを気遣って、英語と日本語を交互に話された。

最後に「ベサメムーチョ」をソンプレロとポンチョのいでたちで披露した。

終わりに部長の薄衣修二さんの解釈による「かっぱれ」を、部員が日本語と英語で朗読した。

(国際交流部会 / 木村耕作)



▲とても明るい人柄が伺えた、ベサメムーチョでした